

1 社会・治安情勢

一昨年11月に実施された大統領選後、開票プロセス等をめぐって全国各地で大規模なデモや道路封鎖が実施され、警察部隊と衝突する事案も多く発生した。

また、現大統領の第二次政権が誕生して1年が経過した今年1月20日から27日までの間、リブレ党支持者によって現政権に反対する全国規模のデモ及び道路封鎖が実施され、大きな混乱はなかったものの、警察部隊と衝突する事案は発生している。

現在、選挙結果関連のデモ等は沈静化しているものの、今後、新交通法の制定、選挙法の改定等、一部の国民が反発すると予想される案件も多く、再度、デモが活発化する可能性は否定できない。

また、昨今では、学生活動家グループ（※特にホンジュラス国立自治大学（UNAH）グループ）が他の活動等に便乗してデモを実施し、タイヤ、投石する等暴徒化している。昨年11月には、UNAH前において、同大学学生活動家グループが、付近のハンバーガーショップを襲撃し、火焰瓶で店内の一部を燃焼させた。昨年12月にも、同じく同大学前において、通行中の公共バスを襲撃し、バス3台を完全に燃焼させるなどした。

引き続きデモ及び道路封鎖箇所には近づかない、移動に当たっては事前に当館領事関連情報をチェックするなど注意を要する。

2 一般犯罪、凶悪犯罪の傾向

（1）ホンジュラス国立自治大学暴力研究所（OV-UNAH）によると、2018年中の殺人事件発生件数は、3,726件（※未確定値、前年比-140件）、10万人当たりの殺人死者数（以下、「殺人率」と称す）は41.3人（同一-2.3人）と引き続き減少傾向にある。

しかし、当国の殺人率は、中南米・カリブ諸国21か国中4番目に悪く、依

然として高い水準であることに変わりはない。

- (2) 殺人事件の約70%は銃器を使用したものであり、また、約40%が午後6時頃から午前0時までの夜間に発生している。
- (3) みかじめ料の支払いを拒否したことによる、犯罪組織からの報復と考えられるバス、タクシーなど公共交通機関関係者に対する殺人、銃撃、放火事件も引き続き発生しており、「ラピディート」と呼ばれるマイクロバス（公共バス）や流しのタクシーは使用せず、安全な交通手段（無線タクシー等）での移動を勧めている。
- (4) 銃器を使用した強盗事件も、引き続き首都圏全般で発生しており、徒歩での移動も極力避け、車両での移動を勧めている。
- (5) コカイン、マリファナが大量押収されるケースは続いており、東部密林地帯等で薬物精製所、密輸用滑走路も発見されていることから、当国が、他の中南米諸国からの薬物の中継地及び精製拠点として位置付けられている状況は変わっていない。最近では、国内でマリファナ等の栽培も確認、摘発されている。

3 最近の邦人及び邦人以外の被害事案

(1) 邦人の被害事案

特になし。

(2) 邦人以外の被害事件

ア 1月2日午前、テグシガルパ市内において、ラピディートに乗客を装い乗車した男らが、乗客から所持品を強取しようとしたところ、運転手が抵抗したため運転手をマチェテ（※山刀）で切りつけ、運転手は負傷。

イ 1月10日早朝、テグシガルパ市内において、ラピディートに乗客を装い乗車した男らが、銃で乗客を脅し所持品を強取し始めたところ、乗客の1人が犯人に向け発砲。銃撃戦となり乗客女性1名及び犯人2名のうち1名が死亡。

- ウ 1月23日早朝、テグシガルパ市内において、ラピディートがオートバイに乗った男に銃で襲撃され、運転手が負傷。
- エ 1月28日早朝、テグシガルパ市内において、ラピディートが男に銃で襲撃され、運転手が負傷。
- オ 2月12日夜間、テグシガルパ市セントロ地区のホテルから出火。同火災に便乗し、付近の商店からの略奪行為を行う者が相次いだ。
- カ 2月17日深夜、コルテス県サンペドロスーラ市において、友人等を乗せタクシーを運転していた男性が、銃で襲撃され死亡。
- キ 2月20日深夜、テグシガルパ市において、警察の検問を振り切り逃走したタクシーと追跡した警察官との間で銃撃戦が発生。タクシーの運転手は酩酊状態で、車内からマリファナも発見された。
- ク 2月26日午前、テグシガルパ市内において、銀行から多額の現金を引き出した男性が、帰宅途中、後方から来た車両に進路を塞がれ、犯人グループに車内から引きずり出され現金を強取された。
- ケ 3月13日午後、テグシガルパ市内において、講義を終え構内から出てきた大学生が、ラピディートの襲撃に遭遇し、流れ弾に当たり負傷。
- コ 3月14日夜間、コルテス県サンペドロスーラ市内において、車両同士が接触しそうになったことに端を発した交通トラブルから、片当事者が銃を取り出し、相手を射殺。
- サ 3月19日夜間、テグシガルパ市内において、店じまいをしていたところに5人の男が押し入り、銃で従業員等を脅し、売上金を強取して逃走。
- シ 3月28日午後、コマヤグア県コマヤグア市において、家の前で母親が所持品を強奪されたのを目撃した男性が、犯人を追いかけてやろうとしたところ犯人に銃で撃たれ死亡。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

5 誘拐・脅迫事案

日本人に対する被害はなし。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

- (1) 一般的にホンジュラス人の対日感情は大変良好であり、日系企業をターゲットとしたテロ等の発生可能性は低い。しかし、日本人企業家を対象とした強盗等は過去に発生しており、一般・凶悪犯罪に対しては十分な注意が必要である。
- (2) 危険度2地域に、商用等で来訪する場合には、事前に十分な情報を収集し、適切な安全対策を行うことが重要である。
- (3) 犯罪被害に遭わないためには、国内の危険地区を十分に把握し、その地区には近づかないことが肝要である。当該地区での業務予定がある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分な治安情報を収集することが重要である。